

自分の考えを広げたり・深めたりする学習指導の工夫

～「読むこと」における単元を貫く言語活動を通して～

与那原町立与那原東小学校 久高友弥

I テーマ設定の理由

近年、グローバル化社会、高度情報化社会の中、パソコン、スマートフォン等の情報通信機器の発達により、情報入手の方法や表現手段が多様化するなど、児童を取り巻く言語環境は大きく変化してきている。その中で、児童には、言語の力を身につけ、他者との関わりの中で適切に活用していく資質や能力が一層求められている。このような時代背景を踏まえ、学校においては言語活用能力の育成が急務とされている。

学習指導要領解説の国語編では、読むことの目標に、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」と示されている。自分の考えを広げたり、深めたりするためには、書かれている事柄を正確に読みとり、自分の考えを持つこと、そして、自分の考えをより良くしていくために、多くの文章などに触れ、確かめることが必要だと考える。

沖縄県教育委員会の発行している「わかる授業Support Guide」では、思考を深めるために「①事実を正確に把握させる。③物事を多面的、批判的に捉えさせる。⑤他者の話を傾聴し、自らの考えをより明確に組み立てさせる。（一部抜粋）」が大切であると述べられている。

平成27年度の全国学力・学習状況調査の国語の結果から、本学級の児童は、「文章と図とを関連付けて読み取り、自分の考えを表現する」問題の正答率が29%、また、質問紙では「友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」と回答した児童が35%と低く、文章を正確に読みとり自分の考えを書くことや、自分の考えを広げ、深めていくということに課題がみられた。

これまでの国語の授業実践を振り返ってみると、児童に、教材文を読みとらせて自分の考えを書かせたり、交流会をさせたり、等と様々な活動に取り組ませてきた。ところが、単元での導入時に、児童が学習過程や活動の目的を理解しないまま、学習したため、表面的な読みとりになったり、交流の目的があいまいになったりと、活動に関連性がなく、思考を深めることに課題が見られた。

そこで、本研究では、「読むこと」の領域において、単元を貫く言語活動を通し、児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確にしていく。また、並行読書として、身近な新聞や図書資料など多くの文章を読むことにより、多様な価値観や表現方法に触れさせる。さらに相互交流を行い、感想を伝え合うことにより多様な価値観を育てる。これらの「読むこと」を通した言語活動によって、児童自身の考えを広げたり、深めたりすることができると考え本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

「読むこと」の領域において、次のような指導の工夫により考えを広げたり、深めたりすることができるであろう。

- (1) 単元を貫く言語活動を位置づけ、学習過程や活動の目的を明確にし、児童が教科書教材や自分の選んだ資料を主体的に読むことにより、考えを広げたり、深めたりすることができる。
- (2) 本や文章を読んで考えたことを発表する場において、グループ構成や交流会の持ち方を工夫することで、考えを広げたり、深めたりできる。

2 検証計画

事前調査で「国語の意識アンケート」を行い、児童の実態把握をする。その後、説明文教材において記事を選び感想を書かせ交流する活動などを取り入れる。また、並行読書として、児童が教材文以外の資料からも読み取りができるように新聞、図書資料を用意しておく。授業後、振り返りを書かせ発表させる。すべての検証授業終了後に、事前調査と同じように国語の意識アンケートを実施し、事前調査との比較で表現力に関する意識の変容を調べる。

検証授業の対象 与那原東小学校 6年2組 28名		
	検証の観点	検証方法
①事前・事後調査	・国語の意識アンケート (12月, 1月) ・全国学力学習状況調査児童質問紙結果(4月) ・ウェビング ・単元テスト	・アンケートの分析 ・結果分析 ・比較, 分析 ・結果分析
②検証授業	・目的に応じて複数の本や文章などを選んで比べて読むことができたか。 ・文章を読んで考えたことを発表し合い、考えを広げたり深めたりすることができたか。	・授業観察(発言等) ・ワークシート ・単元振り返り ・ノート
③まとめ	「読むこと」の領域において単元を貫く言語活動や並行読書、相互交流を取り入れることは考えを広げたり、深めたりすることに有効であったか。	・児童の活動記録から分析 ・ノート

Ⅲ 研究内容

1 考えを広げたり、深めたりするとは

言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】によると、「考えを広げるとは、自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かす」、「考えを深めるとは、自分の考えをもとに多様な観点から自分の考えの妥当性や信頼性を吟味すること」とある。さらに考えを広げたり、深めたりする順序として、「①事実等を正確に理解し、知識や経験と結びつけて解釈し、自分の考えをもつ。②自分の考えについて、探求的態度をもって意見と根拠、原因と結果などの関係を意識する。③自分の考えと他者の考えの違いを捉え、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして振り返るようにする。(一部抜粋)」とある。

つまり、自分の考えを広げるとは、様々な文章を読んだり、他者の意見を聞いたりして、自分が考えていたこととは違う考え方を知り、自分の意見を再構築することであると考ええる。

また、自分の考えを深めるとは、様々な文章を読んだり、他者の意見を聞いたりして、自分の考えとの共通点に気づき、自分の考えを見直すことであると考ええる。

2 「読むこと」とは

学習指導要領解説国語編においては、指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の目標は、第3学年及び第4学年の目標から中学校第1学年までの「C 読むこと」の目標との関係を考えなければならない。

【国語科の目標】

国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。



【C 読むこと】

	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年	(中) 第1学年
目標	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。	(3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。
形成及び交流 自分の考えの	オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。

自分の考えの形成及び交流に関する指導において、小学校段階では、文章などを読んで自分なりの考えをもち、交流することで、違いや自分の考えを広げたり、深めたりすることが重要である。その発展として、中学校においては筆者の見方、考え方を読みとり、それを自分の考えの形成に役立てるという系統性がある。

3 「単元を貫く言語活動」

水戸部修治氏(2014年)によると「国語科の目標は、国語学力を身につけさせることである。言語活動の導入・充実は、この国語学力を効果的につけさせるためにとても重要である。しかし、学習者にとって何のために学ぶのか目的意識が曖昧なままでは、学習効果も薄れる。学習者が興味・関心をもって主体的に学習を進めていく学習状況でこそ国語学力の確かな定着が図られる。要するに単元で身につけたい国語の能力を児童に身につけさせるために、児童達の主体的な思考・判断が生かされる課題解決の過程となるよう、言語活動を単元全体を通して一貫したものとして位置づけたものが単元を貫く言語活動と呼ばれるものである」と述べている。

まず学習を進めていく上で、教師だけでなく、学習者も明確な学習目標(単元の目標)を持つことが大切である。目標が明確であれば、学習者の意欲は高まる。水戸部修治氏(2014年)によると「単元を貫く言語活動の学習のおおまかな流れとして、第一次においては、学習のゴールとなる言語活動を児童に示しその課題を設定させる。全体の見通しを持つことで児童の主体的な学習の意欲を高めることにつながる。教科書教材を読む学習に位置づけることの多い第二次においても、単元を貫く言語活動と切り離して教材を読みとらせるのではなく、常に第三次との関連性を、子ども自身が十分意識できるようにすることが重要である。第三次は、単元を貫く言語活動を子ども自身が自力で遂行する」と述べられている。

しかし、「単元を貫く言語活動」といっても、万能ではなく児童の実態や児童につけたい力、学習の領域によっても様々な学習モデルがある。

まず、「入れ子構造」型モデルである(図1)。導入部で単元を貫く言語活動を見通す導入を行ったり、発展部で自ら選んだ本を紹介したり推薦したりすることを位置づけても、第二次では言語活動との関連性が不明確なまま教科書教材を読みとらせることになりがちであるという課題を解決するために、第二次において前段で教科書の読みとり、後段で自分の文章への適応へと活かすという展開である。

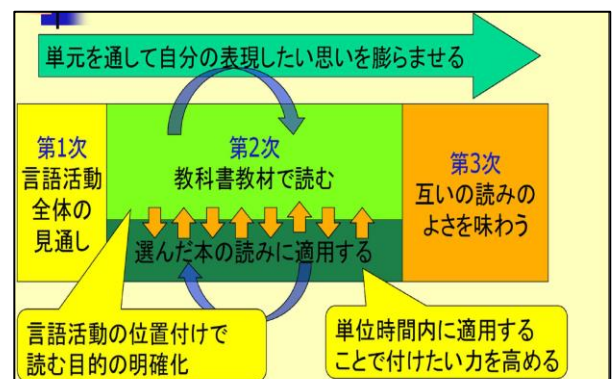


図1 入れ子構造型モデル

次に「ABワンセット方式」の単元展開モデルである（図2）。これは、「入れ子構造」の発展形態として開発されたものであり、展開部を「教科書→自分の資料→教科書→自分の資料…」と、一時間ずつ交互に読み進めていく方式である。一時間ごとに活動が入れ替わって行くため、入れ子方式より中・高学年向きの方法である。入れ子方式の課題として教科書教材の読みとりに時間がかかってしまい、自分の教材への適応ができないということを改良したモデルである。

さらに、「サンドイッチ方式」（図3）の単元構想モデルでは、第二次の学習過程において、自分の表現→課題の確認→教科書での学び→教科書の学びを自分の表現に活かすという構想である。

第二次の冒頭では、展開部の教科書での学びが長いのに対して、学習が進むにつれて、自分の表現のための時間の比率が高まっている方法である。これは、話すこと・聞くことまたは書くことの単独領域や読むことの複合単元において有効である。

本研究においては、「自分の考えを広げたり、深めたりする」ことを、文章の読み取りからだけではなく、交流活動においてもさらに充実させていく。そのため、第二次において毎時間の交流活動を取り入れていくことを計画している。そこで単位時間内に発展部を入れ込む「入れ子構造」型モデルでの学習に取り組ませることが適当だと考える。

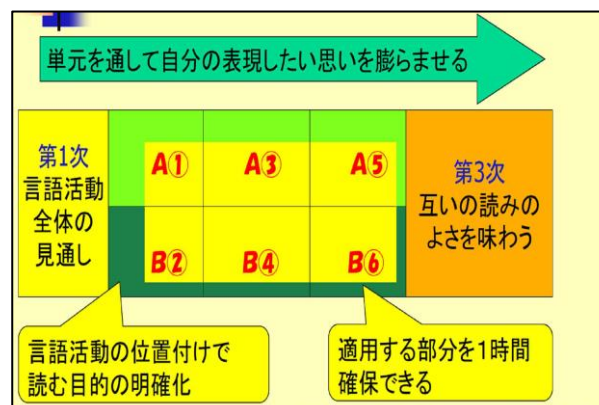


図2 ABワンセット方式モデル

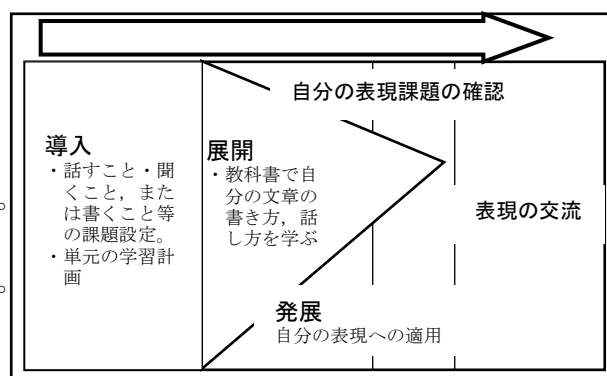


図3 サンドイッチ方式モデル

4 並行読書

小学校学習指導要領解説国語編において読書は、「目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすること」、「日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶこと」と示されている。並行読書とは、自分の課題を解決するためや単元の指導のねらいをよりよく実現するために共通学習材（通常は教科書教材）と関連させて、本や新聞、その他の資料を読むことであり、指導上の工夫である。

並行読書のさせ方について、水戸部修治氏（2014年）によると、「並行読書の位置づけ方や選書の仕方は、指導のねらいに応じて様々に工夫できる」とされている。

(1) 選書の仕方

白川町立白川小学校「読書活動から思いを広げ深め、豊かに表現する子の育成」（2015年）によると、「並行読書の選書は、まず単元の内容にあっている本であること、読み深めたり広げたりできる本であること」と示している。単元のねらいによって、本の内容も同一作家の作品を選ぶ場合もあれば、ジャンルごとの選書ということも考えられる。さらにそれらを児童がいつでも手に取って読むことができるよう担任が選書をしてブックコーナーを作る方法や児童自らが学校図書館などで本を探す方法がある。

(2) 並行読書の種類

- ・先行読書：単元を始める前から扱う読書
- ・並行読書：単元と並行しながら読む読書
- ・継続読書：並行的に読ませた後も継続させる読書」などがあるとされている。

単元の特徴を理解し、どの読書活動を選び、さらに興味関心を高めるために先行読書を取り入れたり他教科との関連性も考えて継続読書まで発展させていく必要があるのかを見極めることが大切である。

Ⅳ 検証授業

- 1 単元名 「自分のめざすプロの生き方を紹介して、考えを広げ、深めよう!」
- 2 教材名「プロフェッショナルたち」
- 3 単元設定の理由

(1) 教材観

児童は、これまでの説明文の学習で、内容を正しく読み取ることや、書き手の意図を効果的に表現する方法、複数の情報を活用することについて学習してきている。本単元の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読むこと(1)オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」である。本教材には三人の「プロフェッショナルたち」が登場する。児童にとっては、なじみのないであろう「海獣医師」、「板金職人」という職業と身近な「パティシエ」というそれぞれ3人が仕事に就いたきっかけから失敗や困難、仕事に対する考え方が書かれた説明文教材である。それぞれ、その人物の実体験や思いを語り手が述べている部分と、登場人物自身が述べる「プロフェッショナルとは」という部分で構成されている。本教材文や自分の選んだ資料の読み取りに当たっては、単元のゴールである自分の考えを広げたり、深めたりするという課題を意識したうえで児童自身が目的を持って読んでいくようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、国語の意識アンケートの事前結果によると、「友達の意見を聞いて自分の意見が変わったことがある」と回答した児童が88%、「グループ活動が好き」と回答した児童が80%と高い傾向にある。しかし、「みんなの前で自分の考えを発表することが好き」と回答した児童は38%である。

このことから、友達の意見をしっかり聞いて考えを持てるが、自分の考えを自信をもって発表することに少し苦手意識を持っていると考えられる。また、約9割の児童が将来になりたい職業を決めていることから、自分の将来について真剣に考えているとみられる。本教材においてさらに多くの職業に触れ、仕事に頑張っている人の考え方や仕事への取り組み方を知ること、グループでの交流活動を通し、卒業前のこの時期に具体的な将来像やそれに向けて努力について考える機会にする。

(3) 指導観

本単元を貫く言語活動として「自分のめざすプロの生き方を紹介して、考えを広げ、深めよう!」を位置づける。この言語活動は、自分が選んだプロフェッショナルの生き方を、「仕事内容」、「仕事に就いたきっかけ」、「失敗や困難に直面した時の考えや行動」、「その人にとっての仕事に対する考え方、生き方」、「資料を読んで自分はどうか考えたか」の順序でワークシートに書き進めていくことで学びを深めていく。

また、相手に紹介するという形をとることで、めざすプロフェッショナルの仕事への思いや考え、自分の考えを落とさずに書くことができると考える。

まず、単元導入時に学習モデルを提示し、児童に活動の目的意識を持たせ、つきたい力を明確にさせる。そして教材文である三人のプロフェッショナルの生き方について観点ごとに学級全体で読みとった後、児童が自分で選んだ「プロ」についての本へ観点ごと読みとりを適応させていく。

これらの読むことの活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることをねらう。その際、児童が多くの資料に出会うための手立てとして、公立図書館の一括貸し出し制度を活用し社会にはたくさんの職業があることや、新聞を活用しプロフェッショナルは自分の身の回りにもいること、地域に特色のある仕事に従事しているプロフェッショナルもいること、などに気づかせたい。

さらに、交流会においては、グループ構成を工夫し、2回の実施することや自分の考えを、誰に、何のために伝えるのか、という相手意識や目的意識を明確にさせ自分の考えだけでなく、相手の考えも広げたり、深めたりさせられるような手立てを行う。

4 単元の指導目標

(1) 単元の目標

文章を読んで、そこに書かれた人物の生き方から、自分の将来の夢や生き方を考える。

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	B 書くこと	C 読むこと	言語事項
○プロフェッショナルたちの人物像や生き方に興味を持ち、自分の将来の夢や生き方を考えて文章にまとめようとしている。	○自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えながら書いている。(イ)	○プロフェッショナルたちが、どんな思いや考えを持って仕事に取り組んでいるかについて、自分の考えを明確にしながら読んでいる。(ウ) ◎文章を読んで考えたことを発表し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ) ○目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む(カ)	○文章に表れている表現の工夫について気づいている。

(3) 単元を貫く言語活動「自分のめざすプロの生き方を紹介して、考えを広げ、深めよう!」

(関連:言語活動例 ア・イ)

(4) 単元の指導・評価計画(全10時間)

過程	時間	学習活動	○教師の手立て・留意点 ☆言語活動の工夫	評価規準 (評価方法)
第一次	1・2	・「プロフェッショナルとはどんな人か」考えて書く。 ・学習モデルを見て、学習の見通しを持つ。 ・プロとアマの違いを話し合う。 ・教科書教材を読み、おおまかな内容をとらえる	○学習モデルを示し、学習の見通しを持たせる。 ○事前にやったウェビングを思い出させたり、プロのつく職業を想起させる。 ○どの文章も大きく3つの構成に分けられていることに気づかせる。(仕事内容、仕事に就いたきっかけ、失敗や困難への対処)	関 学習に見通しをもち、課題を設定することができたか。(観察) 読 仕事内容について自分の文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることができたか。(観察)
	3	・教科書で3人のプロフェッショナルの仕事内容を全体で整理する。 ・自分の選んだ資料の仕事内容について各自でまとめる。 ・まとめたことを交流(ペア)をする。	☆教科書教材から仕事内容を読みとる。(全体) ☆自分の資料から仕事内容を読みとる。(個人) ○友達のまとめたことへアドバイスをする	読 仕事内容について自分の文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることができたか(発言・ワークシート)
第二次	4	・教科書で3人が仕事に就くきっかけについて全体で整理する。 ・自分の選んだ資料の仕事に就くきっかけについて各自でまとめる。 ・まとめたことの交流(ペア)をする。	☆教科書教材から仕事につくきっかけを読みとる。(全体) ☆自分の資料から仕事につくきっかけを読みとる。(個人) ○友達のまとめたことへアドバイスをする	読 仕事選んだきっかけについて自分の文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることができたか。(発言・ワークシート)
	5・6	・教科書で3人の仕事での失敗や困難な出来事への対処を全体で整理する。 ・自分の選んだ資料の仕事に就くきっかけについて各自でまとめる。 ・まとめたことの交流(グループ)をする。	☆教科書教材から仕事につくきっかけを読みとる。(グループ) ☆バックキャストを活用してまとめる。 ○友達のまとめたことへアドバイスをする	読 仕事の失敗や困難について自分の文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることができたか。(発言・ワークシート)

第二次	7	- 教科書で3人が考えるプロフェッショナルについて読みとって整理する。(タイトルをつける) - 自分の選んだ資料のプロフェッショナルについて各自でまとめる。(タイトルをつける) - まとめたことの交流(グループ)をする。	☆学習の前半部分は教科書教材の読みとり、後半部分は自分の資料へ適応させる。 ○複数の資料を活用してもいいことを確認。 ○友達のまとめたことへアドバイスをする	読仕事についての考え方について、要旨をまとめることができたか。 (発言・ワークシート)
	8	自分のめざすプロフェッショナルな生き方や考え方を読んで、自分めざすプロフェッショナルや生き方を考えて書く。	○今まで読みとったことをもとに「どんなプロフェッショナルになりたいか(考え)」、「将来の夢のためにどんな生き方をしたいのか(行動)」という2つの視点で書く。	書自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えながら書いている。(ワークシート)
第三次	9	- 交流会のやり方の確認。 - 書いた作品を読み合い、交流をする。(同職種グループ)。	○交流での聞き方、感想の伝え方のポイントを確認。 ○同職種での交流会をする。	読友達の文章を読んで感想を伝え合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりできたか。 (観察、ワークシート、ノート)
	10 本時	- 前時で書いた付箋紙で、相手の気づけなかったことをアドバイスとして書いているものを紹介する。 - 書いた作品を読み合い、交流をする。(異職種グループ) - 単元の学習の振り返りをする。	○異職種での交流会をする。 ○今まで学習したことを通してプロフェッショナルに対する見方や考え、これからの行動について振り返りをさせる。	読友達の文章を読んで感想を伝え合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりできたか。 (観察、ワークシート、ノート、振り返りカード)

5 本時の展開 (10/10)

(1) 本時のねらい

友達の書いた文章を読み合い、感想を伝え合うことにより、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

(2) 授業仮説

異職種グループ交流会において、交流の目的やアドバイス例の紹介し、感想やアドバイスを書いたりもらったりすることで自分の考えを広げたり深めたりできたか。

(3) 本時の展開

過程	主な学習活動・予想される児童の反応	○指導の留意点 ☆言語活動の工夫	評価 (方法)
導入 5分	1 前時までの学習内容を振り返る。 ・本から読みとったことをまとめた。 ・「プロ」について自分の考えを書いた。 ・同じ職種同士でアドバイスをした。	○学習計画表を確認させる。 ○単元ねらいの確認。	
	2 めあての確認。 交流会をして、よりよい生き方のヒントを見つけよう		

展開 30分	3 交流会の目的の確認と実施方法の確認	○交流会の目的、実施方法の確認をする。 目的 ・ 友達の考えを聞き合い、自分の考えを広げたり、深め、めざすプロに近づくため。 やり方 ・ 異職種をめざすグループに分かれての発表を聞いて付箋紙を渡す。 聞き方・感想の伝え方 ・ 聞き方、感想のポイントを確認し、前時で交流した児童の感想やアドバイス例を紹介し、書き方のヒントにさせる。	関 自分と友達の考えの違いを見つけ、感想を付箋紙に書くとしているか。
	4 友達の発表の聞き方や感想の書き方、アドバイスのポイントを確認する 5 異なる職種ごとの交流会を行い、感想を付箋紙に書いて伝える。 ・ お客さん相手なので、元気なあいさつをいつも意識するといいいよ。 ・ パティシエになるために、英語の勉強も必要だと思うよ。 ・ 看護師になるために、兄弟のお世話をするのはいいですね。	○分からない言葉など、その場で質問させる。 ○感想を伝えられない子へ聞き方やアドバイスのポイントを参考にさせる。 聞き方のポイント ☐ ・ 自分の考えや行動と□違うところ、同じところ。 ☐ ・ いいな〜と思うところはどこなのか（考え方、行動）。 ☐ ・ 自分の考えや行動のヒントになりそうなことはないか。 ☐ ・ 他にはこんなこともあるんじゃない？。 アドバイス、感想のポイント ☐ ・ ○○するところ、○○な考え方が将来の夢のためには□□いいと思う。。 ☐ ・ ○○の夢のためには、こんなことも必要だと思う。。 ☐ ・ ○○のおかげで、自分もそう考えるようにする。。 ☐ ・ 共感します。その理由は○○だからです。。	読 文章を読んで考えたことを発表し合うことによって、自分の考えを広げたり、深めたりできたか。 (付箋紙・ワークシート)
まとめ 10分	6 単元を通して学習の振り返りを書く。 ・ 文章を読んでプロとはあきらめないことだと知りました。 ・ 友達からのアドバイスで○○なこともしてみようと思いました。 7 単元で身に付けた力が総合的な学習の時間へ結びつくことを確認。	☆友達の発表を聞いたり、感想やアドバイスをもらったりして「仕事への考え」「これからの生き方」が、どう変わったのかという視点で書かせる。 (単元振り返りカードを活用) ○文章を読みとる力を総合的な学習の時間の調べ学習で活用することに触れる。	読 文章を読んで考えたことを発表し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりできたか。(ノート)

6 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、授業観察、ノートの振り返り、単元振り返りカード、ワークシートをもとに表を作成した。これにもとづいて考察する。

表 1 評価

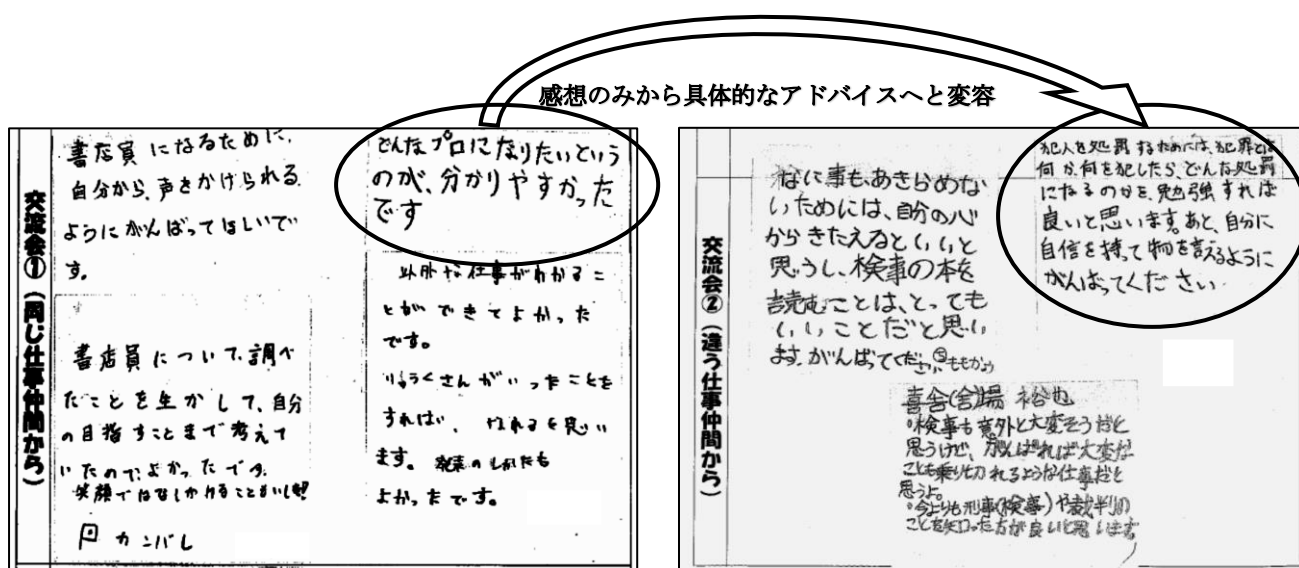
(対象 6 年 2 組 28 名)

検証場面	検証の視点	評価基準			検証方法
		A 十分満足	B 満足	C 努力を要する	
・ 友達と考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりする場面。	異職種グループ交流会において、交流の目的やアドバイス例の紹介し、感想やアドバイスを書いたり貰ったりすることで自分の考えを広げたり深めたりできた。	友達からの付箋紙を参考にして、考えや行動をよりよくしていくための具体的な記述がみられた。	友達からの付箋紙を参考にして、考えや行動を意識するなどの記述がみられた。	友達からの付箋紙を参考にした記述がみられない。	・ 授業観察 ・ ノート ・ 意識調査 ・ ワークシート
	結果	50%	35%	15%	

本時では、異職種グループに分けて、交流会を実施した。前時で、友達のなりたいプロについての発表に対して、具体的なアドバイスがあげられなかった子への手立てとして、いくつか具体的なアドバイス例を紹介することと交流会の目的を再確認することを行った。

資料1は、同職種グループでの交流会のワークシートである。付箋紙の記述に「どんなプロになりたいかが分かった。」という感想のみであった。

資料2では、異職種グループでの交流会のワークシートである。同じ児童が友達へあげた付箋紙の記述において、検事になりたいという児童へのアドバイスで「犯罪の種類を勉強することいい」、「自分に自信を持って発言できるように」など具体的なアドバイスを書くことができていた。これは、相手の発表を聞いても、どんなアドバイスを付箋紙に書けばよいかわからなかった児童が、交流会の目的の確認やアドバイス例を紹介したことにより、プロとしての考え方や日常生活で努力できることなどの書く視点に気づくことができたからだと考える。



資料1 同職種交流会での付箋紙

資料2 異職種交流会での付箋紙

また、交流会後の児童の感想では、友達のアドバイスを聞いて、「スポーツ選手は、裏ではきつい練習をたくさんやることがわかった」や「失敗や困難を乗り越えて、学ばないといけないので、今、頑張れることをしていく」、「身近にいる両親もプロの一人だと気づき、もっと尊敬したいと思った」など友達からのアドバイスを読んで、行動を変容しようという意識や考え方に具体的な記述がみられた児童が50%であった。

これらのことから、異職種グループ交流会において、交流の目的やアドバイス例を紹介し、感想やアドバイスを書いたり貰ったりすることで自分の考えを広げたり、深めたりできた。

V 研究の結果と考察

研究の考察は、目的に応じて複数の本や文章などを選んで比べて読むことができたか、また文章を読んで、考えたことを発表し合い、考えを広げたり深めたりすることをもとに行った。

1 単元を貫く言語活動を位置づけ、学習過程や活動の目的を明確にし、児童が教科書教材や自分の選んだ資料を主体的に読むことにより、考えを広げたり、深めたりすることができたか

(1) 単元を貫く言語活動を位置づけることについて

第1時目において、本単元で身に付ける力として、「考えを広げたり、深めたりすること」であることを確認した。また、学習過程として、教科書の三人のプロについての文章を読みとること→自分の選んだ資料を読みとること→自分はどんなプロになりたいかを考える→交流会をする、という

さらに、活動の目的を理解させるためにワークシートにどのような観点で読みとっていくのか、それをもとに自分の考えを書き、交流会をしていくことを児童が理解できるように教師が作成した学習モデル(資料4)を示した。

[illegible]

各自が選んだ本から自分で調べる

自分のめざすプロの生き方を紹介して、考えを広げ、深めよう!!!

仕事内容

↓

仕事についてさっか付

↓

仕事での失敗や困難で考えたこと、したこと

↓

プロとしての生き方、考え方

名前 ()

こんなプロフェッショナルになりたい!

そのために...

をがんばる!

(友達からのアドバイス)

今、がんばっていること

資料4 学習モデル

Response Category	Percentage
当てはまる	32%
やや当てはまる	64%
あまり当てはまらない	4%
当てはまらない	0%

図4 学習計画表が役に立った

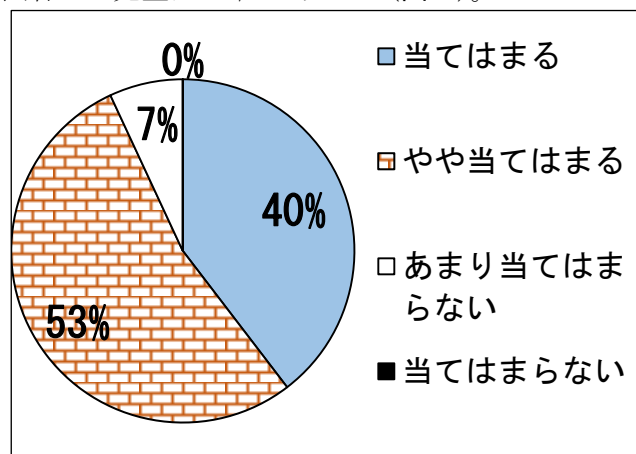


図5 活動の目的を理解していた

検証授業後の本単元末テスト「読むこと」の領域において、学級平均到達度は90%という結果となった。これは、単元を貫く言語活動を設定することによって、学習過程や活動の目的が明確になり、児童が教科書教材や自分の選んだ資料を主体的に読んだり、ワークシートを活用して観点ごとに読みとったりできたことにより、文章から読みとる力がついたからだと考える。

児童は、本単元において、よりよい生き方・考え方を見つけるために、教科書教材の3人のプロフィールの生き方についての文章を読みとった。また、教科書以外に並行読書として、自分で選んだ仕事についての本の読みとりも行ってきた。より多くの文章に触れることで、多様な人の見方や価値観に気づかせるようにした。児童に文章を主体的に読ませるため、本単元においては、1単位時間の中に、学級全体やグループでの教科書教材を観点ごとに読みとり、それを活用し、自

分が選んだ文章を観点ごとに読みとらせた。

児童アンケートで「自分で選んだ本の読みとりができたか」という質問への回答結果が図6である。「読みとることができた」と「大体読みとれた」を合わせると、96%であることから、自分の選んだ本の文章を読みとる前に、観点ごとの読みとりを全体で確認することは、効果があったと考えられる。

資料5は、児童が並行読書で自分の選んだ資料から読みとったことをもとに書いたワークシートである。

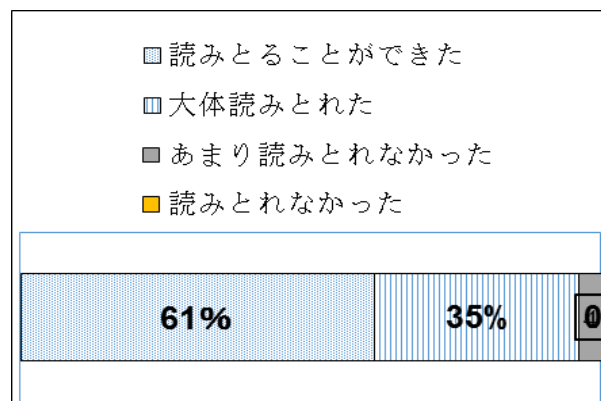
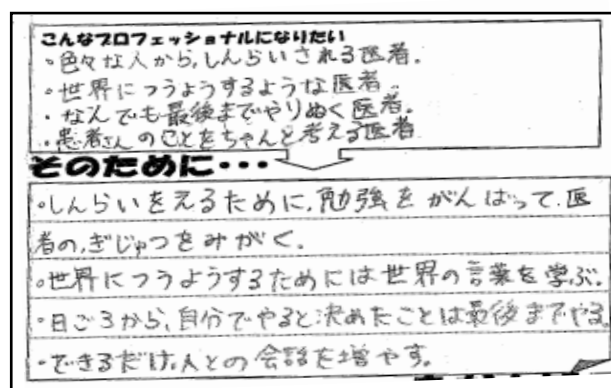
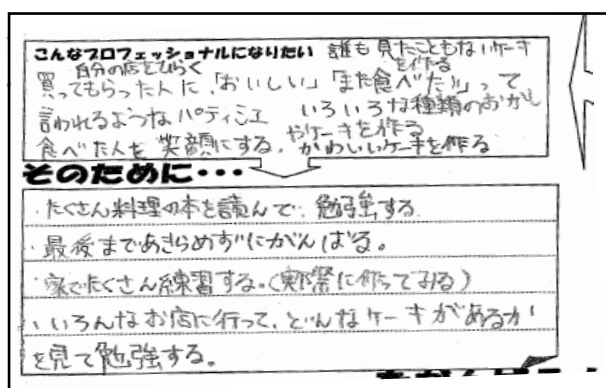


図6 自分で選んだ本の読みとりについて



資料5 自分の選んだ文章を読みプロへの意識を高めた

読みとったことをもとに、「食べた人を笑顔にするようなパティシエになりたい」、そのために、「たくさん料理の本を読んで勉強する」や「信頼される医者になりたい」、そのために「自分でやると決めたことは最後までやる」など、具体的なプロとしての将来像とそれに近づくために努力することを見つけることができたとの記述が見られた（資料5）。

検証授業後、自分が選んだ本を読んだ児童の感想には、「思った以上に仕事は大変そうだった。」や「仕事の楽しさややりがいに気づいた。」などの児童の記述が見られたことから、教科書教材を観点ごとに読みとる力が並行読書でも生かされ、より多くの人の考え、苦勞、やりがいなどに気づくことができ、仕事に対する考えを広げ、深めることができたと考える。

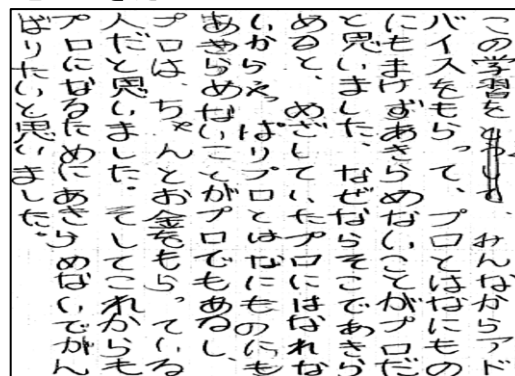
しかし、児童が思いのままに資料を選ぶためには、学校図書館のみでは限界があり、公立図書館の一括貸し出し制度を利用する必要がある。また、プロの意識や行動に気づかせるような内容の資料であるか、選書にも気を配る必要があるということが課題として残った。

2 相互交流を行うことで考えを広げたり、深めたりすることができたか

文章から読み深めた自分の考えを、相互交流を通してさらに広げ、深めるための交流会において、グループ構成の工夫として、児童の将来になりたい仕事を元に、似たような職種同士の児童を同職種グループとして、交流会①を行った。

また、異なる職種同士の児童を異職種グループとして交流会②を実施した。その際友達にアドバイスや感想を伝え合う手段として付箋紙を活用した。

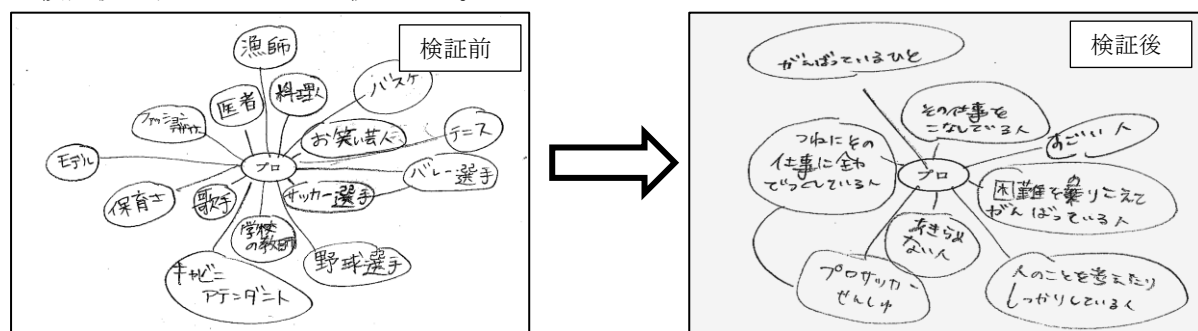
児童は、グループ構成を工夫して実施したことで、「自分の考えを広げ、深める」というねらいを意識し、



資料6 授業後の児童の感想

児童アンケートの結果、「交流会をして、付箋紙は考えを広げたり深めたりするために参考になった」かの質問に対して「参考になった」「どちらかといえば参考になった」と答えた児童は100%だった。付箋紙で具体的なアドバイスをもらったことにより自分の考えの参考になったと考えられる。

また、検証前と検証後に「プロ」についてのウェビングを実施した。資料7は、同じ児童の検証前と検証後のウェビングの比較である。



検証授業前の児童のプロに対するウェビングは、職業名やスポーツなど単語のみの記述であったが、検証後は、「仕事に全力でつくしている人」や「常に努力をしている人」へと仕事へ取り組む姿勢についての記述に変容した（資料7）。これは、プロを仕事名のみで考えていたことが、文章から読みとったり、その読みとったことを付箋紙を活用した相互交流を通しアドバイスをもらったりすることによって、プロについて、考え方や行動面にまで目を向けるようになったからだと考える。

以上のことから、「読むこと」の領域において単元を貫く言語活動や並行読書、相互交流を取り入れることは考えを広げたり、深めたりすることに有効であったと考える。

1 研究の成果

- (1) 読むことの領域において、単元を貫く言語活動を設定し、教師の作成した学習モデルを活用したり、学習の見通しを持たせたりすることを通し、活動のねらいを理解させることで、児童が主体的に教科書の教材文や自分の選んだ文章を読むことができた。(V-1(1))
- (2) 相互交流を設け、付箋紙を活用して、感想を伝え合うことは、文章から読みとった考えを広げたり、深めたりすることにつながった。(V-2)

(1) 児童が自己の課題を解決する際の、並行読書の選書と、量の確保。(V-1(2))

(2) 交流会において自分の思いや考えを伝える際の効果的な手立て。(V-2)

文部科学省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	2001 年
文部科学省	『言語活動の充実に関する指導事例集 小学校版』		2010 年
沖縄県教育委員会	『わかる授業 Support Guide』		2013 年
花田修一・小森茂・水戸部修治・松木正子	共同編集「実践国語研究」	明治図書	2014 年
白川町立白川小学校	『読書活動から思いを広げ深め、豊かに表現する子の育成』		2014 年
〈 http://shirakawasvo.town.shirakawa.gifu.jp/events.html 〉			